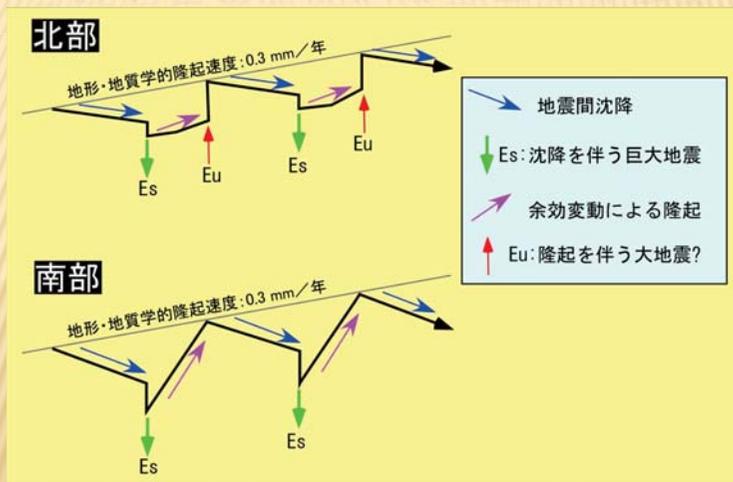
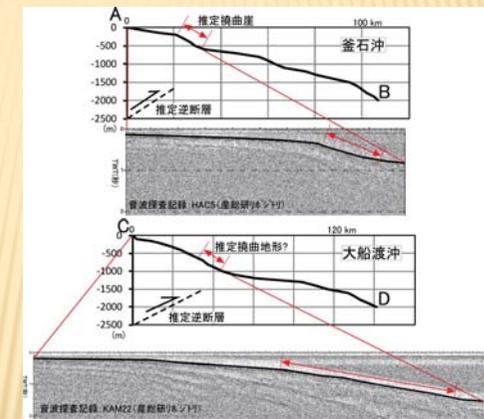


## 6. 三陸海岸の第四紀後期垂直変動モデル



- ・巨大地震後の戻りが遅い北部では、隆起が不足
- ・Euのような海岸隆起を伴う大地震が必要

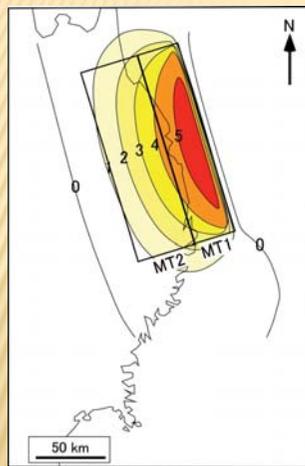
## Ⅲ. 三陸沖の変動地形に基づく断層モデル



大陸棚外縁と前弧海盆の地形境界付近: 拗曲地形?  
 北部は明瞭: 岩手沖セグメント  
 南部は不明瞭?: 宮城沖セグメント?

海上保安庁(1980)1/100万海底地形図より作成。等深線は100m間隔

## ■岩手沖セグメント／推定震源断層モデル(仮説)



地震時地殻変動量の分布(単位:m)

- 想定断層(MT1, MT2)にすべりを与えて、地殻変動を計算
- 完新世最低位離水ベンチ(標高2m)
- 地震間沈降水量(3m/1000年と仮定)
- 推定される地震時海岸隆起量 ~5m
- 計算プログラム: MICAP-G ver.2.1 (気象研究所提供)

断層パラメータ

断層单元	長さ	幅	断層先端深度	断層下すべり端深度	すべり量	傾斜	すべり角	傾斜方向
	(km)	(km)	(km)	(km)	(m)	(度)	(度)	
MT1	150	58	5	55	15	60	90	西
MT2	150	50	55	95	20	30	90	西